



紗艶空(さえんもく) ライトスタンド

紗艶空とは、鉋(かん)で木材の表面を極限まで薄く削った皮膜を独自工法によって丹念に加工した「温かく自然に透ける板」のこと。使用する木材は、熟練の職人が選定し、空目の模様が一番美しくなるように完成状態から逆算して採寸や切り出しを行う。明かりを灯していない状態でも木目の模様を楽しめる。



## 木の魅力を未来へ繋ぐ 職人の技と想いを後継者へ

の格子越しに光を通す構造は、空間にやわらかな陰影を生み出す。直接的な明るさではなく、光がにじむように広がることで、部屋全体の空気を穏やかに整えてくれる。『紗艶』は、木の厚みや格子の間隔がすべて職人の手によって調整されている。わずかな違いが光の表情を左右するため、機械的な均一さではなく、手仕事ならではの感覚が求められる。その名前が示す通り、透け感と艶やかさのバランスは、長年木と向き合ってきた職人の経験値そのもの。使い続けるうちに木は色味を深め、光の印象も少しずつ変化していく。経年変化まで含めて楽しめる点

木の扉や障子、格子、引き戸。木製建具は単なる仕切りではなく、光や風を採り込み、生活のリズムを静かに整える道具だ。そんな建具の魅力が現代の住まいに届け続けてきた工房が、静岡県島田市に拠点を置く『伊藤建具店』。「ホンモノの建具」による「ホンモノの建具」にこだわり、一歳妥協しない真摯な作業と高い施術、信頼で高い評価

株式会社 伊藤建具店  
Tel/0547-34-3428  
E-mail/info@tategu.me  
静岡県島田市御請260-1  
<http://tategu.me/>

も、このプロダクトならではの魅力だ。建具職人の世界では、後継者不足が大きな課題となっているが、同店では若い世代に向けて、ものづくりの現場を開き、職人の仕事の面白さや奥深さを伝える取り組みにも力を入れている。



空宙(もくそら)

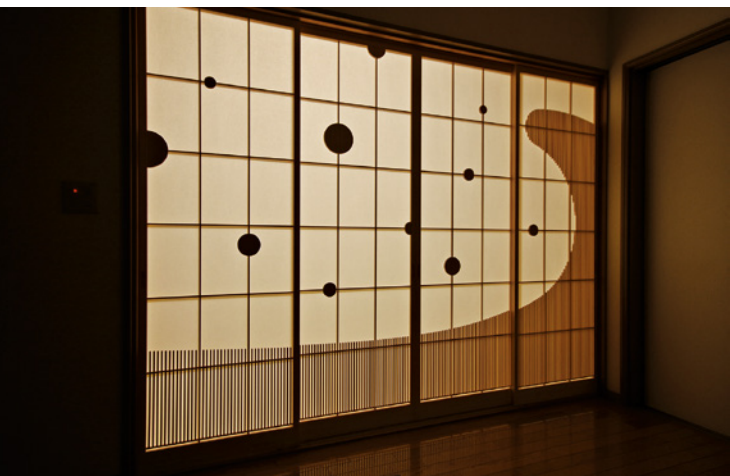
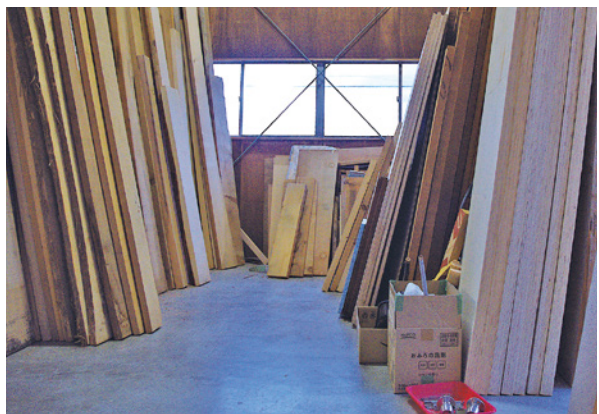
鉋で一つひとつ丁寧に削った空目が、レジンの中に浮かぶよう独自の加工を施した球体の間接照明。

を受け続けている。木材選びから加工、組み立て、調整に至るまで、効率よりも精度を重視する。木は生き物であり、季節や環境によって微妙に表情を変える。その特性を理解し、数年後、十数年後の使われ方まで想像しながら仕上げていくのが職人の役割だ。図面通りにつくるのではなく、「この建具が、この場所、どんな時間を支えるのか」を考える。その姿勢こそが、同店のものづくりの核にある。そうした建具職人の思想を、プロダクトとして分かりやすく体現したのが『紗艶(さえんもく)ライトスタンド』だ。建具づくりで培われた木組みの技術を活かし、木





最近ではコースターを製作して、子どもが木に触れる機会を設けたりするなど、様々な活動を実施。木の価値と建具の素晴らしさ、そして技術を伝え、次の世代につなげていくことに尽力している。



背中を押す姿勢を大切にしているという伊藤さん。指導は道具を直すところから始まり、カシナの研ぎ方も手取り足取り教えるところから始まる。一人の職人と

また、『伊藤建具店』では、老若男女関係なく活躍できる場所でもあり、今現在、職人として、第一線で技術を磨いている女性が大河原さんだ。舞台の大道具や裏方の勉強をする専門学校に入り、舞台関係の会社に就職。その後将来を考え、CADの勉強を行ったという。コロナ禍をきっかけに、「本当にやりたいことは何か」とどのような環境で働きたいのか」を考えるようになり、「やはりモノづくり」に携わりたい」という想いを胸に『伊藤建具店』に飛び込んだ。3年前に代表の伊藤昌弘さんと出会ったことで、現在の仕事・職人としての道へ進むことになり、一か

してのやり方を徹底して覚え、理屈を理解した上で自分なりの方法を選ばせる方針で、主体性を育てている。「熱い想いで、良いものをつくっていることを

ら修行を重ね、今では様々な作品をつくりだしている。「ここまでできるようになったら一番面白いよね」と期待を寄せ、やりたいことは頭ごなしに否定せず、「面白そうだね、やってみな」と



伝統と技術力を次世代へ繋ぐ『伊藤建具店』と息づく「技」「心」。繊細な手仕事に長けた職人たちが、妥協なきこだわりで空間を彩る。

## 伊藤建具店



知ってもらえるだけで、自信にもなり、何より嬉しい。若い世代の方々にも、日本の技術や職人の存在を知ってもらいたい。そして、伝統技術をより身近に感じてほしい」という想いが、自分たちの仕事が誰かの暮らしの中で生き続けることが、職人としての原動力だ。